

国語科学習指導案

岸和田市立城東小学校
指導者 鈴木 洸 多
日時 令和7年11月6日(木)
第5時限(13:40~14:25)
学年・学級 5年1組(17人)

1. 単元名

『どう考える?もしもの技術』

2. 単元の目標

反対意見を予想しながら、説得力のある意見文を書くことができる。

3. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
思考にかかわる語句の量を増やし、話や文章の中で使っている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。情報と情報との関係づけの仕方を理解し使っている。	「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。	進んで反対意見を予想し、学習の見通しを持って、考えたことや伝えたいことを書こうとしている。

4. 教材の取り扱い(主題設定の理由)

教材観

本教材では、「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き方を工夫すること」を重点指導事項としてあげている。児童はこれまで、理由を考えながら意見文を書くことを身に着けている。本単元では、ドラえもののひみつ道具を例に、科学技術の必要性について意見文を書く活動を行う。架空の科学技術について必要か、必要でないかを吟味するにあたり、自分の立場を決め、反対意見を予想する。さらに予想される反対意見への対応を練ることで、自分の考えや理由をより強固にする。こうして身につけた力は、問題解決的、合意形成な議論をする際に役に立つことだろう。

児童観

本学級の児童は、物事を短絡的に捉えがちである。考えの異なる相手に、物事の本質を捉え、正しい言葉で、順序立てて、説得することは難しい。特に、言語環境は著しく問題を抱え、相手の発言に対して、無関係な言葉で返答したり、自分の意見のみを突きつけねじ伏せてしまったりする児童がほとんどである。本単元を通して、自分とは異なるものの見方や考え方に正しく触れる機会を与えたい。インターネットからだけではなく、他者の意見からも情報収集し、そこからどう相手を説得すればいいか考える。

指導観

指導にあたっては、「協働的な学び」を児童生徒一人一人の良い点や可能性を生かすことで、異なる考えが組み合わせたり、よりよい学びを生み出すことだと位置づける。まずは、自分とは異なる意見を持つ相手について知るために、パドレットやロイロノートの共有ノートを生かす。他者の考えの良さに気づく。ときには直接対話をして、考えをより深く情報収集する。児童によっては、直接話すよりも、パドレットのようにチャット形式で話をするの方が得意な児童もいる。「個別最適な学び」として、特にロイロノートの共有ノートを使用する。単元における学習の流れを示し、

児童の学びを共有ノート上で完結させる。本時の目標、活動、振り返りまでを単元の時数を意識しながら、自分のペースで進める。A(全員が到達したい目標)に達した児童については、教科書を超えて、ドラえものの道具だけでなく、日本や世界で起きている様々な諸問題について、学んだ学習過程を自分で生かし、考えていくようにする。

5. 研究主題について

6. 指導計画(全5時間)

第1時 単元の学習の見通しを持つ。学習の手引きと向き合う。

第2時 自分の立場を決め自分の考えを持つ。 S:複数の意見

第3時 自分の意見を整理する。(事実と考えに分ける) S:具体的な事実を意見に組み込んでいる

第4時 自分の意見に対する反対意見と、その対応を考え文章にまとめる。

(本時)

第5時 意見文として文章にまとめる。

第6時 他の方の文章を読み合う。ディベートをする または ドラえものの道具だけでなく、日本や世界で起きている様々な諸問題について、学んだ学習過程を自分で生かし、考えていくようにする。

7. 本時の計画

(1) 目標

「自分の意見に対する反対意見を考えその対応を考えよう」

(2) 本時の評価規準

「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考え伝わるように書き表し方を工夫している。(◎B(1)ウ)

(3) 本時の判断基準

十分満足できる状況(S)	おおむね満足できる状況(A)	努力を要する児童への支援
例に挙げられた日本の諸問題における論述について、自分の意見を考え、正しい言葉で書き記すことができる。	クラスの子の意見の反対意見を予想しながら、説得力のある意見文を書くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・違う立場の意見を共有ノートと一緒に読む ・同じ立場で似た意見の子と一緒に探す ・周りの子と会話を促す

(4) 単元の学習の手引き

学習課題：自分の意見に対する反対意見を考え、その対応意見を考えよう

S：自分の意見を考えに根拠や事実を組み込んで書くことができる。

A：反対意見を予想しながら、それに対する自分の意見を書くことができる。

問題発見：自分の意見に対する反対意見ってどんなものがあるかな？またそれにどんな意見で対応する？

情報収集：教科書・インターネット(事実として使える情報を集めよう)

整理分析：広げる(同じ立場の意見)、比較(違う立場の意見)

表現発信：自分の考えをロイロノートにストックする。⇒文章にまとめる

(5) 学習内容

	S	A	B
導入 (全体) 5分	○本時の学習課題を確認する。 ○学習の手引きを確認する。 ○本時の目標を確認する。 <div style="position: absolute; left: 400px; top: 0px;"> } いつでも確認できるように黒板、共有ノート上に残す。 </div>		
展開 (フリー)	① 自分の立場(心のスピーカーは必要か、必要でないか)を明確にしたうえで、自分の意見を確認する。 ② 自分とは違う立場より出される反対意見を予想する ③ その反対意見に対する対応を考える		
	○より相手を納得させられるよう、根拠となる事実をその意見を組み込む。(資料や、事実を盛り込む。事実と自分の考えを分けて考える。) ○必要に応じて、周りの子に直接話をし、考えや意見を聞く。 ○反対意見に対する反対意見をも予想し、その対応を考える。		○違う立場の意見を共有ノートと一緒に読む ○同じ立場で似た意見の子と一緒に探し、その対応を真似する。 ☆周りの子との会話を促す
	意見がまとまった人は文章にまとめ始める。		
振り返り (個人) 5分	第4時の欄に本時の振り返りを書く ・〇〇さんは、自分が思っていなかったことを考えていた。 ・〇〇さんの、～という意見を知り、その対応を考えた。 ・自分の～という反対意見の資料が見つからなかったため、次回探したい。		

8. 板書計画

<p>パフォーマンス課題『自分の意見に対する反対意見を考え、その対応意見を考えよう』</p> <p>S: 自分の意見を考えに根拠や事実を組み込んで書くことができる。「それって、あなたの感想ですよ?」に反論する。</p> <p>A: 反対意見を予想しながら、それに対する自分の意見を書くことができる。「それって、あなたの感想ですよ?」</p> <p>問題発見: 自分の意見に対する反対意見ってどんなものがあるかな?またそれにどんな意見で対応する?</p> <p>情報収集: 教科書・インターネット(事実として使える情報を集めよう)</p> <p>整理分析: 広げる(同じ立場の意見)、比較(違う立場の意見)</p> <p>表現発信: 自分の考えをロイロノートにストックする。⇒文章にまとめる</p>
--